

主体的・対話的で深い学びのある授業
課題解決見通し型



見通す

復習

問題提示・問題把握

課題設定

- 意欲の向上
 - ・前時までの復習問題で学ぶ雰囲気をつくる。(手を挙げる)
- 解決の見通し
 - ・声に出して問題文を読む。(一人で、全員で)
 - ・状況や問題を理解する。
 - ・数量に関する情報を正しく取り出す。
 - ・既習事項が活かさないか、違いは何か考える。
- 課題意識の醸成⇒主体的・対話的で深い学び
 - ・学習課題(めあて)の設定や確認をして見通しを持つ。
 - ・既習事項や前時との違いを見つける。(子どもから課題を引き出す等の工夫をする)

問題把握時の『学びあい』

○問題から気付いたことはありますか(具体的発問)



見通しを持つ

つなげる

自力思考

学びあい

ペア学習
グループ学習

全体交流

- 課題と自分のつながり
 - ・問題文を読み取り、必要な情報を取り出す。
 - ・既習事項や生活経験などをもとに筋道を立てて考える。
 - ・自分の考えは消さない。また、試行錯誤する。
 - ・考えを言葉や式、図、表、グラフなど適切な方法でまとめる。
 - ・「学びあい」に参加することができるように自分の考えを持つ。
- 自分と友達とのつながり、交わり
 - ・自分の考えをより分かりやすい方法で説明する。
 - ・筋道を立てて思考過程を話す。
 - ・友達の意見と自分の意見を比べて聴く。

伝えあい・聴きあい・認めあい
→ 表現力の育成



つぶやき、質問を大切にし、分からないことは分からないという

ひろげる

まとめ

練習問題

振り返り

- 学習内容の定着の確認→評価
 - ・本時の学習をして分かったこと(課題に対する答え)を書く。
 - ・「学びあい」で理解したことをまとめる。
 - ・規則性や法則性などを見つけてまとめる。
- まとめにつなげる発問をする=比較、共通、関係付け等
- 教材の価値を共有する(感動算数)
 - 練習問題をやってみたいという気持ちを引き出す =意欲、意識、評価
- 自分の学びの確認→メタ認知
 - ・学習して分かったことや感じたことを分かりやすく書く。
 - ・学習したことをもとに生活場面で活かす方法やさらに新たな課題を見つける。
- 本時に身に付けさせたい力(授業のねらい)を明確にし、課題とまとめがつながるようにする



練習問題(できる・分かる・よさの追求)で確認する